

モデル事業名	西播磨の自然を活かした集落活性化モデル事業
活動団体名	西播磨生き生き街道活性化協議会 <small>にしはりまい きい きかいどうかつせいいかきょうぎかい</small> <small>しろうしししょうこうかい かんこうきょうかい しろうし きょうちよう ひょうごけん</small> <small>かんせいがくいんだいがくそうごうせいさくがくぶちゅうじょうけんきゅうしつ</small> 宍粟市商工会、しろう観光協会、宍粟市、佐用町、兵庫県、 関西学院大学総合政策学部 中條 研究室
ホームページ	<a href="http://shiso-sns.jp/">http://shiso-sns.jp/</a>
所属/ 担当者名	しろう観光協会 会長 寄川靖宏
連絡先	0790-63-3000 info@shiso-sns.jp
活動地域	兵庫県 宍粟市 山崎地域、一宮地域、波賀地域、千種地域 兵庫県 佐用町 豊福集落、金子集落 <small>しろうし やまさきちいき いちのみやちいき はがちいき ちくさちいき</small> <small>きょうちよう とよふくしゅうらく かなごしゅうらく</small>

### ● 活動地域の概要

○宍粟市、佐用町は、兵庫県の北西部に位置し、岡山県、鳥取県に接している。京阪神大都市圏から2～3時間程度の距離にあり、そのほとんどを森林が占める典型的な中山間地域である。人口の流出が顕著であり、県下のなかでも過疎化が進んだ地域になっており、集落そのものの維持が困難になっている地域も数多くある。

※10年前と比較した経済指標（8年度/18年度）

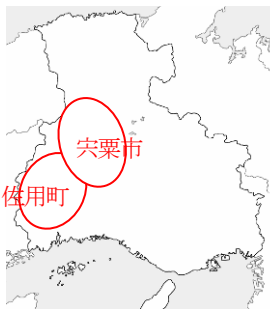
宍粟市 人口 90.6% 実質市町内生産 93.6% 年間消費販売額 78.6%

佐用町 人口 89.9% 実質市町内生産 89.2% 年間消費販売額 76.2%

※高齢化率

宍粟市 26.7% 佐用町 31.0%（全県平均 20.5%）

○加えて、平成21年8月（事業期間中）に、台風第9号によって、22人の死者・行方不明者、住家1,100戸以上の全半壊、1,800戸以上の床上・床下浸水等、甚大な水害が発生した地域であり、今なお復興への努力が続けられている。



山の中に点在する宍粟市の集落（宍粟市）



美しい景観を保つ一方で、維持が難しくなりつつある佐用町の棚田（佐用町）



平成21年台風9号被害の様子

### ● 活動地域の課題

○平成20年度に、兵庫県内の地域 SNS 主宰者（宍粟市商工会、佐用町含む）が「地方の元気再生事業」の採択を受け、地域 SNS を活用したバーチャルな交流と、都市部の若者のリアルな交流を織り交ぜた事業を実施。この中で、農村部は、都市部との一過性の交流に頼るのではなく、農村部の若者（高校生など）へのアプローチも行いながら、都市と農村が協働し、過疎が進展するなかにおいても「誇り」に思える地域づくりが大事であるとわかった。

○宍粟市をつらぬく国道29号＝直轄国道は、通過交通が減少傾向にあり（岡山県境に近い佐用町側を経由する鳥取自動車道に流れている）、企業や観光事業者の撤退が続くなど、地域経済が大きく落ち込んでいる。

○そのため、小規模集落（限界集落）のなかにある資源を活かしながら、「あるものさがし」の観点で、都市と農村の連携、若者をまじえた世代を超えた連携により、持続可能な事業を行っていく必要がある。

### ● 活動の内容

（全体）

○人口減少が激しい小規模集落（限界集落）において、大学生などの次世代の担い手を中心にする、自然・文化などの地域資源を活かしながら、交流訪問に加えて、地域 SNS、インターネットテレビなどの ICT ツールを活用した交流により、常時、お互いの顔が見え、つながりを意識できる持続可能な交流をめざす。

(1) 地域資源を活かした交流の促進の実施。宍粟 50 名山ハイキング会の開催、ハイキングコースの電子マップ、GPS ナビでの記録、ハイキングを通じた都市部－農村部交流等を実施。

(2) 若者が地域のことを「誇り」に思う地域づくりの実施。関西学院大学生・市立伊丹高校生による宍粟・佐用フィールドワーク、宍粟デートコースマップの作成、高校生の佐用復興への想いビデオ収録などを実施。

(3) 小規模集落の活性化、情報発信活動の実施。鹿肉を通じた交流、宍粟市波賀地区名産品を地域 SNS で販売、西播磨水害の復興支援として情報発信の支援等を実施。

### (直近1年間の進捗など)

- 地域 SNS での交流は、現在でも順調に行われており、宍粟の SNS 「E-宍粟」で参加者 386 名（4 月から 43 名増加）、佐用の「さよっち」で 531 名（同 41 人増加）となっている。
- 宍粟 50 名山のハイキングは、今年度も実施中。
- 若者との交流では、関西学院大学生による宍粟フィールドワークを今年度もすでに 2 回訪問し、あと 1、2 回の訪問を予定。佐用でも、伊丹市立伊丹高校生と県立佐用高校生による交流が今年度も実現の見通し。
- 鹿肉を通じた交流では、伊丹のイタリアンレストランが鹿肉を使ったミートソース（真空パック）の生産を開始し、佐用や宍粟での販売を模索中。パッケージ作成等で伊丹の地元の人も関わっている。

### ● 活動の成果

#### ・全体

- 地域との協働も、関係者の尽力により、より現場に近いところの人たちと協働することができた。特に、地域 SNS の活用により、どこに所属するでもない一般の人たちも、今回の事業に協働できた。
- 成果としては、次のことが挙げられる。
  - (1) 宍粟 50 名山を通じた都市部との交流により、山資源を再認識した。
  - (2) 若者の視点を入れたことで、地域資源の再評価につながった。
  - (3) 都市部の大学生を中心とした復興支援コミュニティが創生された。
  - (4) 地域 SNS を媒介として、都市部に特定の小規模集落（限界集落）が気になるグループを生み出すことに成功。
  - (5) 都市部と農村部の若者同士が話し合うことにより、農村部の若者が自分たちの地域の資源に気付き、次代の農村部を盛り上げていく若者たちの育成にも成果を上げた。

#### ・直近1年間の成果など

- 宍粟 50 名山は、ガイドクラブが結成されるなど、地元の観光資源として順調に環境が整ってきている。
- 今年度の関西学院大学生のフィールドワークで、地元の資源再発見とその「見える化」を実施中。同じものが見え方によって都会の若者を引き付けることなどを、農山村部の人たちが学ぶきっかけになっている（下の写真参照）。
- 関西学院大学生が作成した宍粟デートコースマップは、宍粟市商工会女性部との連携で「宍粟で恋しそう」プロジェクトとして継続することが決まった。
- 佐用では、消滅集落であった若州地区を活動拠点として佐用のまちおこしを行う「佐用学生連絡協議会」が平成 22 年 5 月に結成されたが、このメンバーの多くは、この事業で佐用フィールドワークに参加した学生が担っている。
- 鹿肉による交流では、伊丹市商工会議所が平成 22 年 6 月に「有害獣鹿活用研究会」を立ち上げるきっかけになった。
- これらのことが評価され、平成 22 年度は総務省「地域 ICT 利活用広域連携事業」に採択された（受託団体：NPO 法人場とつながりの研究センター、事業名：GPS・地域 SNS 連携型動画マップ推進事業、受託額：2,541 万円）。



宍粟・伊和神社にて地元民（左）と学生（右）が撮影。学生は「パワースポット感」を重視。（10月14日）

学生が見て回るところ

宍粟で恋しそうプロジェクトの開始のきっかけとなった学生作成のパンフレット

### ● 今後の課題及び展望

#### ・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

- 都会部の若者（学生）と農山村部の人々の交流の成功は、双方の調整に当たるコーディネータの力量に依存する部分が大いだが、このコーディネータの育成が進んでいない。その理由にコーディネータが報酬を得られないことにある。育成と合わせて、この問題の解決を検討する必要がある。
- また直接の交流においての双方の旅費の負担は、双方に大きな負担感となり、交流の妨げになっている。若者（学生）フィールドワークへの補助等の支援もありがたい。

#### ・展望（今後の取組みや検討について記入）

- 今後も財源が確保される限り、地域 SNS を活用したバーチャルな交流と、都市部の若者のリアルな交流を織り交ぜた事業を実施していく。具体的な事業内容については、地域 SNS 上で農山村部・都市部の若者同士が直接、話し合っ

### ● その他（自由記述）

- このような発表の機会は、今後も得られるとありがたい。